

第2学年1組 学級活動(2) 学習指導案

日時：令和4年9月30日(金)第5校時

<現職教育テーマ>

情報化の進展に対応した教育を通して、情報を正しく安全に利用するための判断力を養い、主体的に情報を選択・活用する子どもの育成

<下学年ブロックテーマ>

相手の気持ちを考え、情報を正しく安全に利用することができる子どもの育成

- 1 題材名 「ほんとうに 教えてもいいの？」 <個人情報保護>
学級活動(2) エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

- 2 題材設定の理由について

(児童の実態について 略)

本題材は、学習指導要領上、学級活動(2)の内容の一つである「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の中のエ「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」を基に位置付けられている。個人のパスワードを使うようになった児童たちの周りには、他にも様々な個人情報が溢れている。しかし、その扱いについては、まだ十分な知識が得られていないのが現状である。児童への聞き取りでは、「プレゼントがもらえるクイズやアンケート用紙に、名前や年齢等を書いて応募したことがある」と答えた児童は、21名中8名とクラスの3分の1以上を占めている。このように、インターネット上だけでなく、日常生活においても個人情報を求められるような場面がよくある。そのような状況に児童が直面したときに、自分の判断ですぐに教えたりせず、よく考えて、困ったときはお家の人や大人に相談して安全に利用しようとする態度を育てるため、本題材を設定した。

指導にあたっては、導入で児童の興味を引くアンケートを提示することで、一人ひとりが自分の考えをもち、意欲的に授業に参加できるようにする。また、展開の場面では、グループや全体での交流を通して友達考えにも触れさせ、自分と比べながら考えさせるようにしたい。さらに、個人情報とは何かをしっかりと押さえ、大切に守らなければいけないという意識付けを図っていききたい。最後に、学習して分かったことや今後気を付けたいことをワークシートに書かせることで、意識を高め、情報を正しく安全に使用するために必要な決まりやマナーを一人ひとりが身に付けられるように支援していききたい。

- 3 事前の指導

活動の場	児童の活動
朝の時間	アンケート 「インターネットの利用」 「個人情報の提供」
国語	タブレットを使用する活動において、パスワードは自分だけのものだということを理解し、他人に教えたりせずに、大切に扱おうとする。
道徳	教材「たんじょうびカード」を通して、嫌な気持ちになる言葉や態度について考える。

- 4 テーマに迫るための手立て

- (1) 児童の興味を引くアンケートを提示することにより、一人ひとりが身近な問題として考えられるようにする。
- (2) 個人情報の扱い方について、分かったことや気を付けたいことをワークシートにまとめさせることで児童の意識を高め、今後の生活で実践できるようにする。

5 本時のねらい

個人情報の大切さについて知り、自分や身近な人々の個人情報を守るために気を付けることを考え、実践することができる。

6 学習過程

	学習活動・内容	時間	○ 教師の支援	※ 評価
導入	<p>1 本時のめあてをつかむ。 (1) アンケートの内容を捉える。 (2) 本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>このようなアンケートをもらったら、どうしたらいいかな？</p> </div>	5	○ 「プレゼント」や「先着10名」等、思わずアンケートに答えたくなるような言葉を入れて児童の興味関心を高め、より身近な問題として捉えさせるようにしたい。	
展開	<p>2 自分だったらどうするかを考え、話し合う。 (1) 自分の考えをワークシートに記入する。 (2) グループや全体で考えを交流する。</p>	10	○ 「答える・答えない・迷っている」のどれかを選択し、その理由も考えさせる。 ○ 「答える」を選択した児童には、記入したアンケート用紙をポストに投函させ、送付したことを認識させる。 ○ 黒板にネームプレートを貼ることにより、友達の意見と比べながら考えさせるようにしたい。	
	<p>3 アンケートを投函した後どうなったかを知り、話し合う。 (1) 宅急便が届いて困ったことになったわけを考える。 (2) どうすればよかったか振り返り、考えを発表する。</p>	10	○ プレゼントではなく、請求書が届いた場面を設定し、個人情報を第三者に教えてしまったことに気付かせるようにする。 ○ 知らない人に簡単に大切な情報を教えてはいけないことを理解させるようにしたい。 ○ 自分の判断を振り返って考えさせることで、一人ひとりが身近な問題として捉え、本時のまとめに繋げていけるようにする。	
開	<p>4 個人情報について話し合う。 (1) 「個人情報」という言葉を知り、他にどんなものがそれに当たるか考える。 (2) 自分以外の個人情報の扱い方や、他の場合についても考える。</p>	10	○ 氏名・生年月日・住所・電話番号・学校名等を組み合わせることで個人を特定できる情報を「個人情報」ということを押さえる。 ○ 児童から考えが出ない場合は、パソコンのID、パスワード、メールアドレス、顔写真なども個人情報になるため、むやみに教えてはいけないことを補足して伝える。 ○ 一度出してしまった情報は、取り消せないことを確認し、よく考えて判断できるようにさせる。 ○ 個人情報の収集を目的としたケースもあるので、一人で判断せずに、まず、お家の人に相談することが大切なことを押さえる。	
まとめ	<p>5 学習を振り返り、個人情報を守るために気を付けることについてまとめる。 (1) 個人情報について確認する。 (2) 分かったことや今後気を付けたいことをワークシートに書き、発表する。</p>	10	※ 個人情報の大切さを理解し、今後大切に扱っていくことを具体的に決めることができたか。 (発表・ワークシート) ○ 学習したことを家庭でも一緒に共有できるように、保護者からの記入欄を設け、家庭教育と連携しながら進めていけるようにする。	

第5学年1組 学級活動(2) 学習指導案

日時：令和4年11月11日(金)第5校時

<現職教育テーマ>

情報化の進展に対応した教育を通して、情報を正しく安全に利用するための判断力を養い、主体的に情報を選択・活用できる子どもの育成

<上学年ブロックテーマ>

自分の言動に責任を持ち、情報を正しく安全に利用することができる子どもの育成

- 1 題材名 「楽しいコミュニケーション」
学級活動(2) イ よりよい人間関係の形成

- 2 題材設定の理由について

(児童の実態について 略)

本題材は、学習指導要領上、学級活動(2)の内容の一つである「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の中のイ「よりよい人間関係の形成」を基に位置付けられている。中学校へ進学すると、今まで以上に通信機器の所持率が上がる。そのため、連絡手段として SNS を使用する際、普段の会話とネット上でのコミュニケーションでは異なる部分があることを認識させる必要がある。学校生活だけでなく、情報社会の中でも相手の気持ちを考え、思いやりのある望ましい態度を育てるため、本題材を設定した。

指導にあたっては、導入で教師のメッセージ上の勘違い事例を例に挙げ、同じ言葉でも人によって受け取り方にずれが生じていることに気付かせたい。また、展開の場面では、カードを使用して言葉の持つイメージを考え、「自分が言われたら嫌な言葉」カードを使って、自分と友達の考え方が必ずしも同じではないことを実感させたい。そして、顔や表情が見えないことで誤解が生じやすいことを認識できるようにしていきたい。その上で、ネット上でコミュニケーションをとる際は、どんなことに気をつければ良いのかを明確にし、実践につなげていきたい。

- 3 事前の指導

活動の場	児童の活動
道徳	情報モラル「その遊び方、だいじょうぶ？」
国語	「よりよい学校生活のために」 アンケート「藤原小学校と5年生の良いところと課題」

- 4 テーマに迫るための手立て

- (1) 「言われたら嫌な言葉」カードを使用し、自分と友達では言葉の受け取り方が違うことを実感させ、一人ひとりが自分自身の問題として考えられるようにする。
- (2) 気付いたことをグループや全体で共有し、分かったことや気を付けたいことをワークシートにまとめさせることで児童の意識を高め、今後の生活で実践できるようにする。

- 5 本時のねらい

自分と相手の受け取り方に違いがあることや、ネット上では「誤解」が生まれやすいことに気づき、それらを踏まえた上で自分の気持ちを上手に相手に伝える方法を考え実践できるようにする。

6 学習過程

	学習活動・内容	時間	○ 教師の支援 ※ 評価
導 入	<p>1 本時のめあてをつかむ。 (1) 教師の例を見て話し合う。 (2) 本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>楽しいコミュニケーションをとるためには、どんなことに気を付ければよいか考えよう。</p> </div>	10	<p>○ 教師と相手に齟齬が生じていることに気付かせ、文字だけのコミュニケーションの難しさに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 「あやつるこ」の文言を活用し、本時では「あ・・相手のことを考える子」について考えていくことを全体で確認する。</p>
展 開	<p>2 「言われたらいやな言葉」カードを並べ、気付いたことを話し合う。 (1) 自分が言われたらいやな言葉カードを並べ、友達の考えを知る。 (2) 考えを交流し、気付いたことを話し合う。 ・小グループで ・全体で</p> <p>3 ネット上で気を付けなければいけないことを話し合う。 (1) 言葉や絵文字によって変わる印象について話し合う。 (2) ネット上のコミュニケーションの特性を知る。 (3) 誤解を招きやすい表現は他にどんなものがあるか考える。 ・おもしろいね ・何で? ・よくない? ・やばくない?</p>	15 15	<p>○ 考えすぎてしまい、時間がかかってしまうことのないように、直感で並べるように促す。</p> <p>○ 友達とカードを見合うことで、自分と友達との感覚のずれに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 「ごめんね」という言葉と絵文字を例に挙げ、相手がどんな気持ちで送っているか予想させることで、ネット上では思いがうまく伝わらないことがあることに気付かせる。</p> <p>○ ネットの特性を全体で確認・共有する。</p> <p>○ 普段の会話では気にならないことでも、文字のみになるとどうなるか考えさせる。</p> <p>○ 思い浮かばない場合には、教師から例を提示する。</p>
ま と め	<p>4 学習を振り返る。 (1) ネット上でのコミュニケーションで気を付けたことについて自分の考えをまとめる。</p>	5	<p>※ ネットの特性や相手の気持ちを考えることの大切さを理解し、上手に SNS を使うために自分が気を付けることについて決めることができる。 (発表・ワークシート)</p> <p>○ 学習したことを家庭でも一緒に共有できるように、保護者と一緒に行う欄を設け、家庭教育と連携しながら進めていけるようにする。</p>